

セントレアの気象（春号）

2026年（令和8年）4月

目次

セントレアにおける霧について
- セントレアにおける霧について- ……1~6



気象台から観測した霧（2024年2月20日）



はれるん

気象庁マスコットキャラクター

中部航空地方気象台

Chubu Aviation Weather Service Center

セントレアにおける霧について

1. はじめに

今回は、セントレアにおける霧について、発生しやすい時期やその発生メカニズム、2024年に発生した霧の事例について紹介します。

2. セントレアにおける霧の発生時期

図1にセントレアにおける月ごとの、何回程度霧が観測されたかについての10年平均を示します。見ての通り、霧は一般的に海水温が低くなる2月から5月にかけて多いことがわかります。

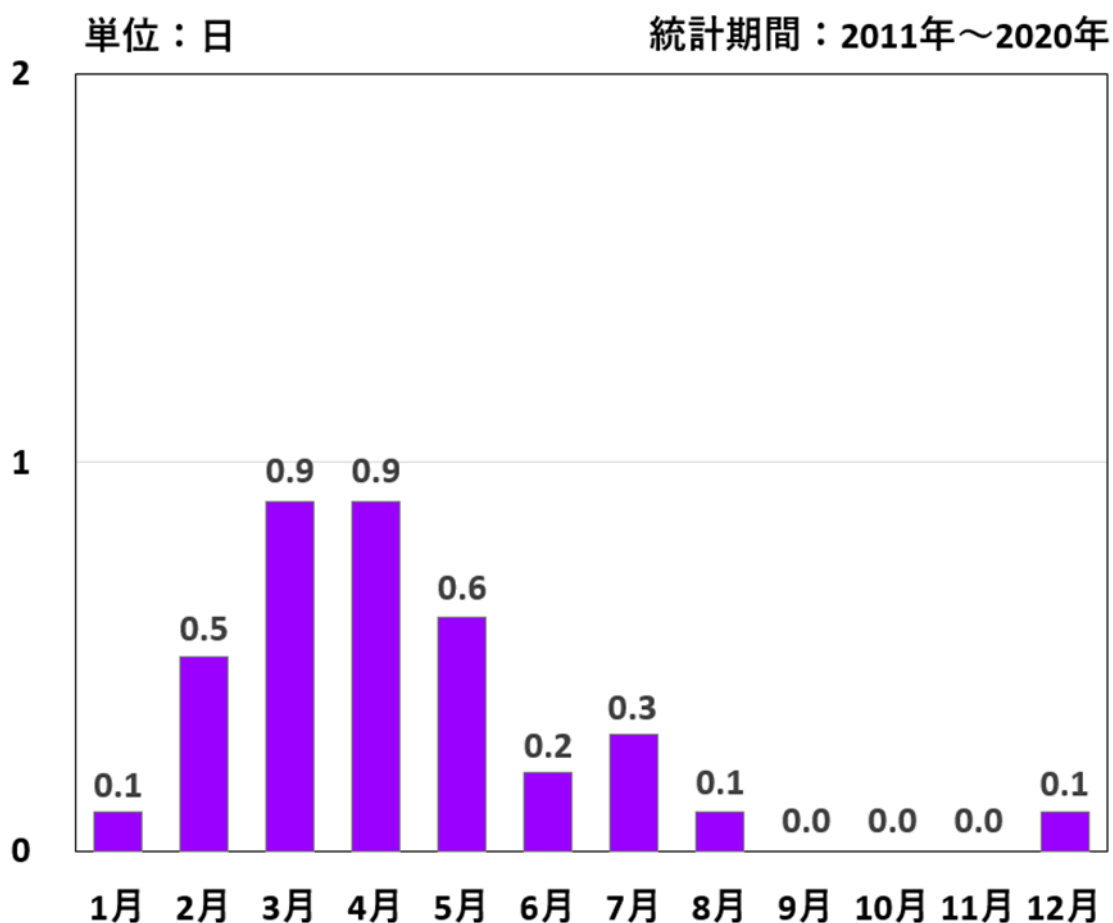


図1 年平均霧日数

3. セントレアにおける霧の発生メカニズム

セントレアで霧の発生するメカニズムについては、安定層によるもの、内陸放射によるもの、伊勢湾口から流入するものに大別されます。

まず、安定層による霧のメカニズムについてですが、図2の様にじょう乱（低気圧）が接近するなどして下層大気が暖かい南東風となり、地上は内陸からの冷たい北風となる際に発生するものが挙げられます。これは、降水などにより内陸の気温が低下することで地上に湿った北風が入り、下層大気には暖かく湿った南東風が入ることで安定層が形成され、空気が澱むことで霧が発生するという流れです。場合によってはごく弱い降水を伴うこともあります。



図2. 安定層による霧

次に内陸放射による霧については、地上が弱風場で、晴天である時に発生します。図3の様に、内陸では地面が放射冷却によって冷やされることで霧が発生し、北風に乗ってその霧が南下してきます。また、伊勢湾の海水温が低い場合に発生することが多いです。



図3 内陸放射による霧

最後に伊勢湾の南海上から流入する、いわゆる移流霧については、地上から下層が湿潤な南東風であり海水温が低いときに発生します。図4の様に、湾外海上からの暖かい空気が冷たい湾内海面上に流れ込んで、冷やされたときに発生し、海霧とも呼ばれます。セントレアでは、伊勢湾の海水温が低くなる春に発生しやすくなります。

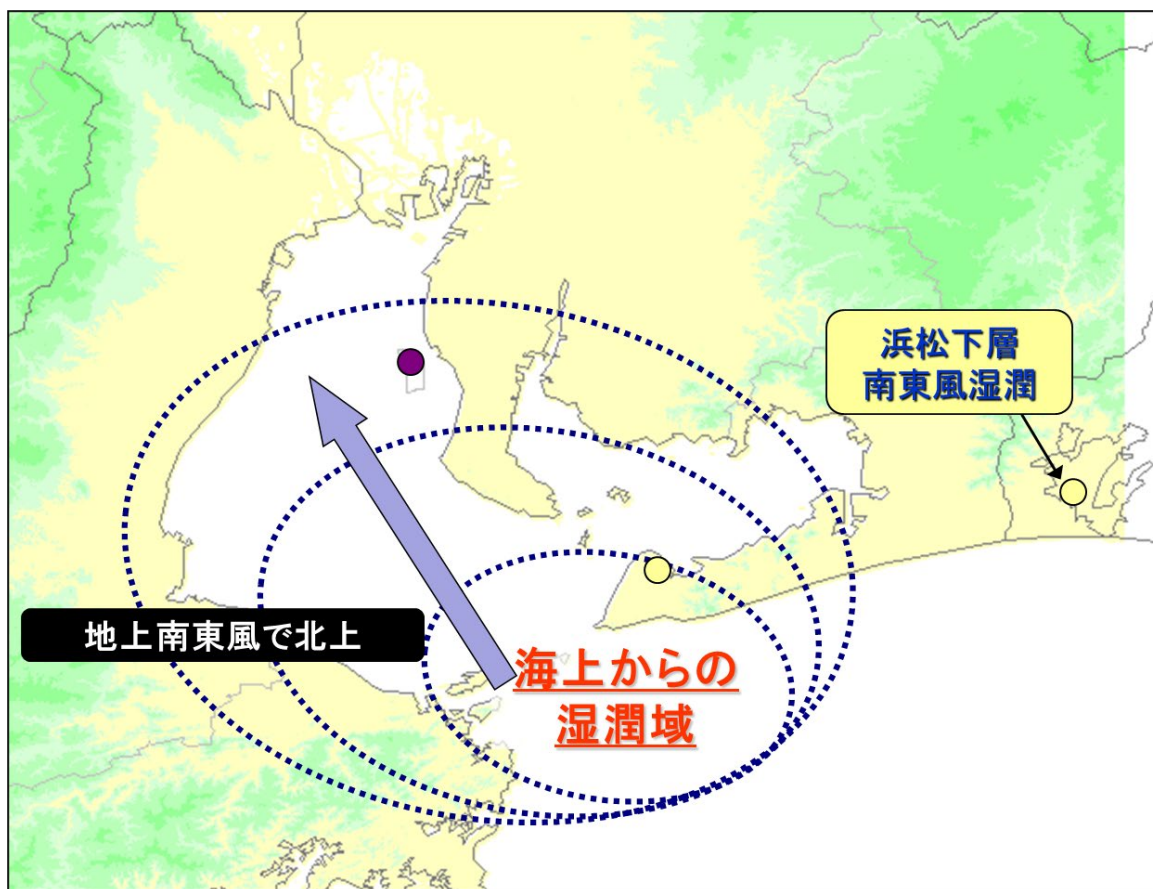


図4 伊勢湾港から流入する移流霧

4. 2024年2月20日に発生した霧の事例

実際に霧が発生した事例として、2024年の2月20日の事例を紹介します。この事例の観測時系列が図5となります。19日は降水が続き地上が湿った状態となり、日界頃高気圧後面の南東風から内陸の冷氣層による北風となり、気温が急降下し視程及びシーリングが低下しました。霧の発生した19日21時の天気図が図6となります。高気圧の後面、寒冷前線の前面で、暖湿気が流れ込みやすい気象条件となっています。セントレア周辺において、地上は冷氣層に覆われ冷湿な北風で、下層風は高気圧後面の南東風で暖湿気が流入する状態となっており、安定層が形成されていました。この結果霧が発生し、自動観測では視程0m、雲底高度0ft観測、航空機のダイバートが発生する結果となりました。

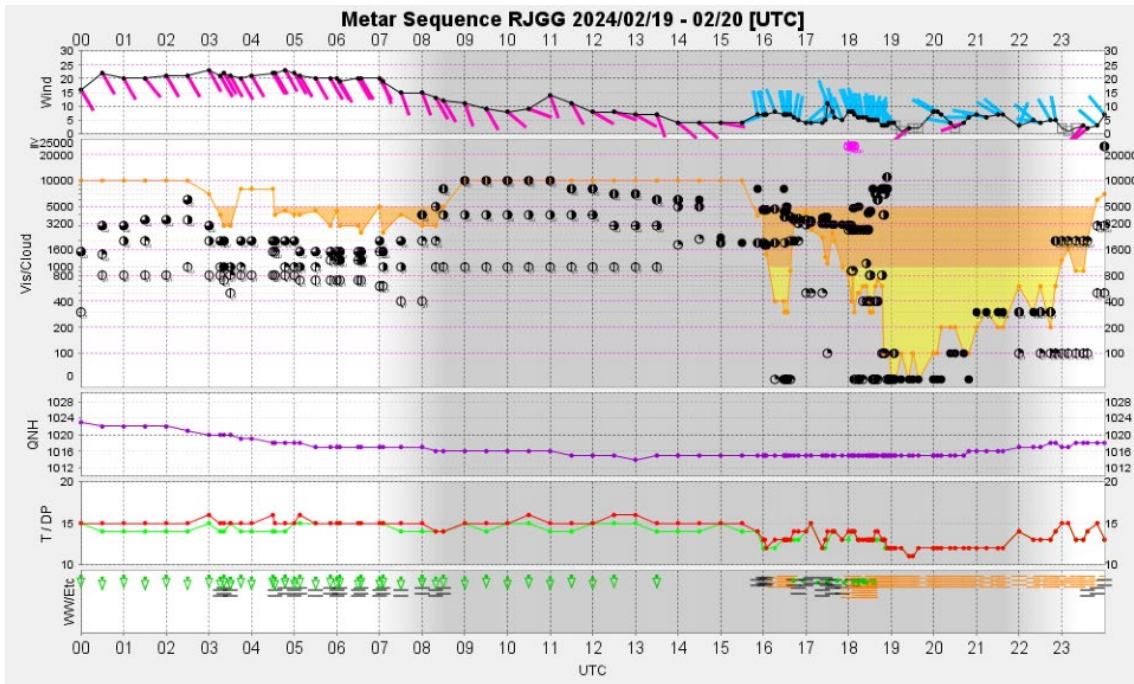


図5 霧発生日の観測時系列

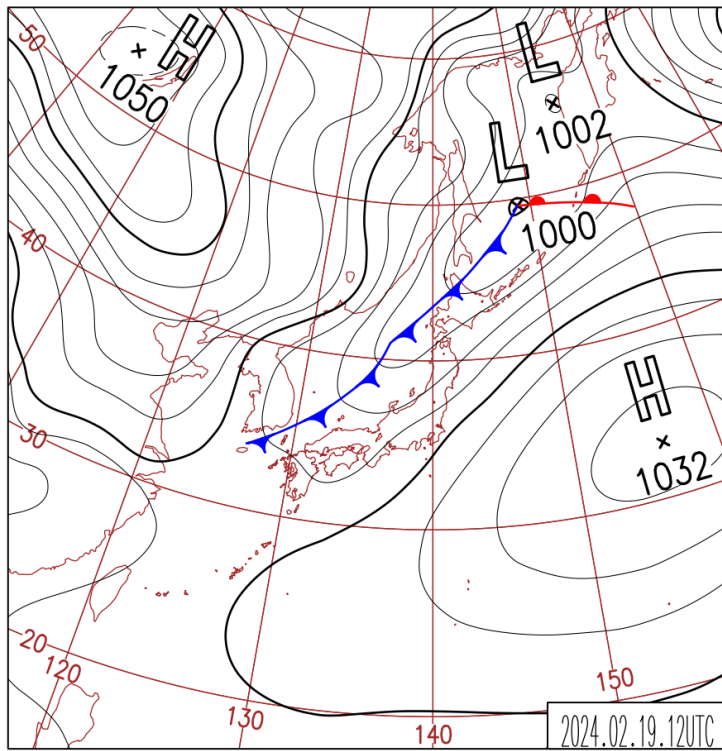


図6 霧の発生した時の地上天気図

5. おわりに

今回は、セントレアにおける霧が発生するメカニズムと2024年2月20日に霧が発生した事例について紹介しました。霧が発生すると視程やシーリングが低下し航空機の運航に大きな影響が出るため、発生数は少ないもののセントレアにおける霧の予報は重要です。ただし、霧が実際に発生するかをTAF等で発表できるかは、発生数の少なさから事前にTAFで予想しようとする空振りしやすいため、飛行場気象解説情報のサブシナリオでの記述（予想）が多くなります。飛行場気象解説情報ではサブシナリオで霧等の顕著な現象について記述していますので、是非ご利用ください。气象台としても、今後さらなる予報精度の向上に努めてまいります。

編集 : 中部航空地方气象台
発行 : 中部航空地方气象台
発行日 : 2026年(令和8年)4月27日
〒479-0881
常滑市セントレア一丁目1番地
(大阪航空局中部空港事務所庁舎)

TEL 0569-38-0002

中部航空地方气象台ホームページ

<https://www.data.jma.go.jp/chubu-airport/>